

民主島根

2020年
1.5
第1351号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

「野党連合政権」実現する年に 大平前衆議院議員 勝利と野党共闘の前進へ 安倍政権倒し、新しい政治を

安倍政権・与党が、日本共産党、立憲民主党、国民民主党など野党が要求した臨時国会の会期延長を拒否し、「桜を見る会」疑惑にフタをし、逃げるように会期を閉じた暴挙に怒りが収まらないまま新年を迎えました。昨夏の参院選では全国すべての1人区で野党統一候補がたたかいた、10選挙区で自民党との一騎打ちに勝利しました。野党共闘は、国会でも高知県知事選での協力など一歩一歩深化しています。年初の解散・総選挙の可能性も取り沙汰されています。市民と野党の共闘と日本共産党の躍進で「野党連合政権」を実現し、安倍政治を終わらせる年にしましょう。

謹賀新年



日本一の高さ（44m）を誇る日御碕灯台（出雲市）

党躍進、議席奪還必ず

前衆議院議員



今年原爆投下から75年。5年前の国会初質問で「黒い雨」問題を取り上げる際に話を伺ったSさんが昨年の夏、亡くなられました。繰り返すさまざまな病気を「被爆した」という思い込みのせいだと政府から決めつけられ、裁判での決着も見ぬまま生涯を終えられたこと、一体どれほど悔しかったでしょうか。被爆者にもう時間はあ

大平 喜信

りません。私たちは直接被爆者から当時の様子を聞くことも、あの強さや優しさに触れることもできなくなりました。この節目の年を核兵器廃絶へ飛躍的な前進を勝ち取る一年にしなければなりません。

希望の政治を開く年へ

前参議院議員



仁比 聡平

災害のない平和な年になるよう願わずにはいられません。アフガニスタンで凶弾に斃れた中村哲医師のご冥福を祈ります。2001年同時多発テロののち米軍によるアフガン報復戦争と空爆のさなか、ペシャワールの病院を訪ねました。戦争でテロをなくすことはできない。人道支援と紛争の平和的解

党議席増を勝ちとろう

今年は3つの議員選挙

西日本豪雨から1年半が経つてなお、くらしをとり戻すことはとても大変です。被災者支援と気候変動への責任を果たす政治へ―決意を新たに、

今年、4月に川本町議選、10月に安来市議補選、11月に雲南市議選が行われます。4月の川本町議選（定数9）には、現職の山口節雄町議が2期目に挑戦します。10月の安来市議補選（定数1）には、候補者の擁立を検討しています。11月の雲南市議選（定数22）は勝利



ん。今年ニューヨークで開催される原水爆禁止世界大会に参加し、世界中から集う平和を願う市民とともに、核大国アメリカで「核兵器のない世界を」「世界の被爆者の援護を」と声をあげます。議席を失って2年。被災地や農村、貧困の現場など中国地方の各地に足を運んできました。その

都度、今の政治への憤りとともに、議席がないはがゆき、悔しさを募らせてきました。安倍首相の「逃げ切り」を許さず、被爆者に背を向ける安倍政権の退陣、野党連合政権実現を。歴史的党大会を成功させ中国地方から党躍進と議席奪還必ず。今年もよろしくお願います。

日本共産党 新春街頭宣伝

1月2日(木) 午前10時～ 松江・一畑百貨店前

1月4日(土) 午後1時～ 出雲・ラピタ本店前

県議、市議らが新年の決意を訴えます。

その他、各地でも街頭宣伝を実施します。

鼓動

2020年はねずみ年。ねずみの絵本という真つ先に「ぐりとぐら」を思い出す。童話作家・中川李枝子さんの不朽の名作。シリーズ累計2630万部発行され、昨秋には切手も販売された▼青い服の「ぐり」はまじめで慎重。赤い服の「ぐら」は元気なおちようしもの。性格が正反対の2人が「カステラをつくる」という同じ目的にむかって力を合わせていく。森の動物たちとカステラを食べる場面はほっこり幸せな気持ちになってくる▼中川李枝子さんは「童話に教訓はいらない」と話す。が、「あなたと私はぐりとぐら。お互い違うのだから、違いを認め合って力をあわせよう」という話と読みとれるあたりが、長く愛される理由ではないだろうか▼まもなくおこなわれる日本共産党第28回党大会では「多様性を大切に、個人の尊厳を尊重する政治を築く」など「安倍政治からの転換の3つの方向」をうたった。「多様性の中の統一」を大切に、「市民と野党の共闘」が力強く発展している。人類史の大きな流れにたつて、「ぐりとぐら」のようにお互いを尊重しあつて、みんなの力で野党連合政権を実現していきたい▼中川李枝子さんは、日本共産党の雑誌「女性のひろば」(2020年1月号)で戦争中、母親の表情がどんなに険しくなったという自らの戦争体験を語っている。「17年保育園に勤めてわかったこと。子どもたちはお母さんが大好きだつていうことよ。お母さんから笑顔奪ってはいけないのよ」。戦争に突き進む政治をストップさせ、みんなに笑顔があふれる政治の実現へ、みなさんと力を合わせていきたい。(後)